

No 27
30 Apr. 2010

日本・パプアニューギニア協会会報

ごらくちよう

Bird of Paradise

発行 NPO法人 日本・パプアニューギニア協会

発行日 平成22年4月30日

編集 NPO法人 日本・パプアニューギニア協会広報部 〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-17 千代田会館6F(ニューギニア航空日本支社内) TEL 03-5216-3555 FAX 03-5216-3556

新 大 使 館 は キ キ ハ ウ ス

中 村 弘 (当協会理事、晃和木材株式会社 顧問)

3月31日、美しく桜が咲き誇る中、午前10時より東京都下目黒において駐日パプアニューギニア新大使館の落成披露および命名式典が行われた。建物は、当協会会員でもいらっしゃる横山章様が設計され、PNGの伝統的な帆掛け舟ラッカトイのデザインが施されたユニークで素晴らしいものだった。PNGより訪日されたマイケル・ソマレ首相により正式に開館が宣せられ、この建物はThe Sir Albert Mori Kiki Houseと命名された。前大使マイケル・マウエ現外務次官もご出席され、懐かしいお顔に嬉しかった。

12時からは会場をホテルニューオータニの鳳の間に移し、PNG大使館主催の落成祝賀会が開催された。500名を超える方々が招待されたようで、開場と同時に入口には長蛇の列ができ、私がこれまでに参加したPNGのレセプションの中では、一番大きなものだったとたいへん驚いた。



新大使館

まず、アバル外務貿易移民管理大臣が挨拶され、本日正式に新大使館がオープンしたこと、ニューギニア航空の成田ポートモレスビー間の直行便が週2便に増便されたこと、その第一便が今夕成田空港を出発する旨が発表された。また、最近現地で開発を進めている大型LNG(液化天然ガス)プロジェクトへの日本企業の参加を期待していることも表明された。

日本側からは、西村外務副大臣がまず祝辞を述べられ、今後の両国の関係が益々深耕されることを期待すると発表された。

その後、モロベ、マヌス、エンガの3州から来日したダンサーたちの民族舞踊シンシ

が披露され、会場は一気に熱気に溢れた。

私は、本日かくも大勢の招待客の出席を拝見し、そして、今回の新大使館の完成、ニューギニア航空の増便、LNGプロジェクトへの日本企業の参加によって、今後両国の関係が一段と深まることは間違いないと確信した。



右からソマレ首相、マウエ次官、ナパオ氏



シンシ披露



大勢の招待客

友好と協力の 新たな地平を求めて

唐沢 敬

(当協会副会長/訪問団団長)



ポートモレスビーの日本大使公邸

日本とパプアニューギニアを繋ぐ空の便(成田-ポートモレスビー)週2便化と駐日PNG大使館の新館落成を機に、日本・パプアニューギニア協会は、両国関係の飛躍的な発展を願い、大規模な友好訪問団の派遣を企画しました。3月31日-4月3日に実施されたこの催しには、友好議員連盟に所属する国会議員の方々、企業関係者、社会活動家、大学教員、戦没者ご遺族、音楽家、農業従事者等各界を代表する56名もの人々が参加され、かつてなく多彩で大規模な友好訪問となりました。参加者ならびにご協力いただいた日・パ両国の各方面の方々にご心よりお礼申し上げる次第です。



西山 肇 大使

方々が出席しました。西山大使による歓迎の挨拶に続き、村田吉隆日本・パプアニューギニア友好議員連盟会長、ハヤベPNG大学教授(PNG側代表)、私が登壇、両国関係発展への新しい努力を誓い合ったのは大変意義深いことでした。4月6日づけ「ポスト・クーリエ」紙が「友好関係の新たな幕開け」と題するジョナサン・タノス記者の記事を掲げ、訪問の意義を強調していたのが強く印象に残っています。



素晴らしいお料理



村田吉隆 日・パ友好議員連盟会長



参加された皆様

今回の訪問団はポートモレスビー、マダン、ラバウルの3方向に分かれ、それぞれの地で企業や団体を訪問、友好交流やダイビング、野鳥観察等訪問計画を実施しました。歓迎集会やシンシンの踊りなど現地の人々による歓迎行事も各地で繰り広げられ、社会や地域の代表から日本の協力支援に対する感謝と期待の表明がありました。4月3日(土)には、首都ポートモレスビーの日本大使公邸で西山肇大使主催の歓迎パーティーが催され、日本、PNG双方から多くの

祝 ニューギニア航空 週2便就航!

文 : 木本 徹

(当協会会員)

写真 : スギ☆カナ

(当協会会員・動物写真家・日本写真家協会会員)

ニューギニア航空が、成田-ポートモレスビー間を週2便(水、土)運行することとなり、その初便が飛び立つ3月31日(水)に、搭乗ゲート前で盛大な就航記念式典が行われました。

夕陽が沈み暗くなりはじめた成田空港。その中で、ポートモレスビー行き搭乗ゲート前は明るく、この就航を祝おうと参加した大勢のパプアニューギニア人、日本人の熱気につつまれていました。参加者は、用



テープカット



搭乗ゲート前の様子

意されたシャンパンやジュースなどを手に式典を祝いました。

式典では、まずPNGダンスチームのシンシンが披露され、つづいて、ニューギニア航空日本支社長島田



花束贈呈

ニューギニア航空ストラップ



スギ☆カナ(右)と私



屋代君(右)と清水君(左)

謙三様のご挨拶、PNG側からはアバル外務貿易移民管理大臣、日本側からは大口国土交通審議官のお言葉をちょうだいしました。つぎに、PNG、日本要人の方々がテープカットを行い、最後に小野真弓日パ親善大使が機長へ花束を贈呈してお開きとなりました。

さて、いよいよ記念すべき初便へ搭乗。その際、搭乗客全員にニューギニア航空2便就航特別記念ストラップをいただきました。かわいらしく、センスが良い！ いっぺんで気に

入りました。

私たちは、昨年、はじめて絶滅危惧種のキノボリカンガルーの写真を撮影するためPNGを訪れ、すっかりPNGの魅力に引き込まれてしまいました。PNGは、まさに動植物の宝庫であり、楽園ともいべき魅力的な場所です。

今回、週2便となりました。これにより日本の方々が更にPNGを訪問しやすくなり、私たちのようにPNGの魅力を知る方が増えるといいなと期待しています。

の距離が縮まって、とても親しくなれたような気がしました。

清水: 僕は、やはり2日目の別れの場面だな。今回、彼らのお世話役として参加したんだけど、恥ずかしい話、PNGについても英語もほとんど勉強しないで行ってしまいました。お世話をすどころか、場面によっては、彼らの邪魔にさえなっていたんじゃないかと思うんです。そんな至らない僕だったのに、別れ際には、彼ら全員が僕たちに「ありがとう、ありがとう」って何度も言葉をかけてくれ、ずっと見送っていてくれたんです。

ほんとうにいい人たちなんだなあって、胸が熱くなりました。

屋代: うん、僕もそう思った。「いい人」ってシンプルな表現だけど、もし「屋代くんって、いい人だね」って言われたら、最高に嬉しいな。

清水: そうだね。そう言われるようになりたいね。

司会: 最後にひと言、お願いします。

屋代: このツアーの環境って、かなりレアだと思うんです。日本にいて、まわりが全部PNG人。日本人は清水君と僕だけ。だから、まわりの日本人の目を気にせずに、のびのびと彼らと接することができました。PNG不勉強が原因のトンチンカンな質問も、下手な英語も、そのままぶつけることができました。

清水: そうだね。こういう企画は、また、ぜひお願いします。

司会: 本日は、どうもありがとうございました。

外国人から仲間になった瞬間

屋代 健一 (当協会青年部・東京国際大学4年) 清水 涼仁 (当協会青年部・東京国際大学2010年3月卒業)

駐日PNG新大使館落成披露式典、ニューギニア航空週2便化記念セレモニーのためPNGから来日されたダンスチーム。

彼らが新潟県長岡市、埼玉県鶴ヶ島市でダンス披露できるよう当協会が1泊2日のバスツアーを催行しました。添乗員役として、当協会青年部の屋代健一さんと清水涼仁さんがツアーに参加してくださいました。その時の笑いと感動の珍道中(?)をうかがいました。

司会: PNGのダンサー20人と2日間をともにしたわけですが、PNG人の印象をお聞かせください。

屋代: PNGの方々は、言葉がうまく伝わらなくても、何度もコミュニケーションを取ろうとして下さいました。だから、僕たちを「2日間、一緒に過ごすだけの外国人」ではなく、「2日間しか一緒に過ごせない仲間」と見て下さったように感じ、とても嬉しかったです。

清水: うん、他人っぽいやそよそしい時間って、ほとんどなかったですね。

すぐ仲間になった気がします。それは、僕が努力したというよりも、彼らがとても社交的だったからじゃないかと思うんです。僕自身、PNGには二度行ったことがあります。いつも同じ印象を持ちます。僕がハローって声をかけると、どんなに疲れていても必ずニコッと笑ってくれます。それって、簡単なことのように、案外難しいことではないでしょうか。僕たちは、もっと見習ったほうがいいと思います。

司会: そのとおりですね。彼らから学ぶこと、いっぱいありますね。ところで、ツアー中、印象に残ったできごとを聞かせていただけますか？

屋代: 長岡で食事をしている時、僕が「Call me Ken, please」と自己紹介をすると、一人の女性が「My son's name is Kenzie」と教えてくれました。そして、それからは、彼女は僕をKenzieと呼ぶようになり、僕たちの間

日本・パプアニューギニア協会
法人会員紹介 第20回

「みなさん、こんにちは」

株式会社 鈴木瓦店です。

〒195-0051 東京都町田市
真光寺町234番地
TEL042-708-0316
FAX042-708-0317

「瓦屋」と聞くと、皆さんはどのような印象を持たれるでしょうか？ 皆様
の生活の中では、馴染みの薄い職
業かもしれません。そんな皆様のため
に、少し「瓦」のお話と当社のお話
をさせていただきたいと思ひます。

「瓦」は約1420年前に中国からや
って来ました。ですから、随分前か
ら私たち日本人の生活の中に取り入
れられてきた歴史ある建材と言えるで
しょう。このように、歴史ある建材と当
社は江戸末期から付き合いありませ
す。現在は十数名の瓦葺き職人と共
に日々精進している次第です。そし
て、「和の心」を継承する伝統的日本
建築の一部である屋根瓦と太陽光発
電システムとを融合させて誕生させた
瓦の施工にも力を入れております。
地球温暖化が懸念される現代にお

いて、自宅屋根の上で太陽光を利用
した電気を使って生活するというの
は、非常に理に適ったことだと考え
ているからです。

温暖化の問題は、我々が真剣に危
惧し、直ちに対応策を考えなければ
ならない重要な課題だと思ひており
ます。そこで当社では、古くなった瓦や
割れてしまった瓦を自社工場内で粉
砕し、壁材や舗装材に甦らせる事業
も展開しています。従来、瓦は産業廃
棄物として処分されてきました。この
製品の誕生により、形を変え、再び
皆様の生活の役に立つ事ができるの
です。もともと瓦は、透水し、また保水

もするという性質を持っています。屋
根の上にある時は、冷たい雨や雪か
ら皆様の生活を守っていましたが、舗
装材として生まれ変わった時には、こ
の性質がヒートアイランド化を減少さ
せるのに役立っています。

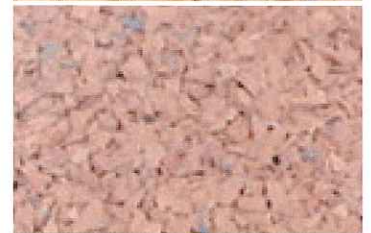
冒頭でも触れたとおり、「瓦屋」とい
う職業は、皆様に馴染みの薄い職業
だと思ひます。しかし、伝統を引き継
いでいくという誇りと共に、現在の状
況に上手く対応できるよう柔軟性を持
って精進して参りたいと思ひます。

当社ホームページ

<http://www.suzuki-kawaraten.co.jp/>



低蓄熱性の特徴をもつ瓦を利用した舗道。
表面温度がアスファルトより十数度低い。



廃瓦の骨材
上から 5~10mm 3~5mm 0~3mm

事務局からのお知らせ 編集後記

会員名簿の更新

本年度は会員名簿更新の年度です。
加筆、修正、削除などご要望がござい
ましたら、事務局までご連絡ください。

新大使館完成、ニューギニア航空
週2便(水、土)。

いよいよPNG時代到来か。
ラッカトイデザインの大使館、素敵で
すね。

私はまだ実物を拝見していないので、
今度、用事を作って訪ねてみようっと。

(佐藤 直子)



日本・パプアニューギニア協会 会員募集

本協会は、日本とパプアニューギニアが友好関係を促進し相互理解を深める
ことを目的として、文化、学術、芸術、スポーツ、観光等様々な活動を行って
おります。どうぞ本協会の活動をご理解下さり、ご協力の程をお願い申し上げます。

申し込み方法 / 郵便局の振込取扱票にてお申し込みください。
年会費 / 個人会員 5,000円 法人会員 50,000円 学生 1,000円 PNG人 1,000円
会費受付 / 郵便振替口座をご利用ください。

本協会では随時会員を募集しております。お知り合いの方にぜひお声をかけて下さい。
*会員数 2010年3月末 法人会員/24 個人会員/133

口 座 記 号 / 番号 00140-2-277582
加 入 合 名 / 日本・パプアニューギニア協会
問 合 せ 先 / 日本・パプアニューギニア協会 事務局
〒102-0074
東京都千代田区九段南1-6-17 千代田会館6階
(ニューギニア航空 日本支社内)
電話:03-5216-3555 FAX:03-5216-3556
E-mail:info@air-niugini.co.jp